

マタイ 2 章 1-12 節 「マギ」

今日の主人公たちは、「マギ」です。マギとは、天文学、占星術、医学などの知識を持ち、賢者や助言者として王たちに仕えていた人々のことです。彼らがイエスさまに捧げた三つの贈り物には、意味があったと言われています。黄金は王権の象徴で、イエスさまが「王の中の王」であることを認め、敬意を表すものでした。乳香は神性の象徴であり、イエスさまが神聖な存在であることを示しています。没薬は死者の埋葬の際に使われる香料であり、イエスさまが将来、人々の罪のために苦しみ、死を経験することを預言的に示していると考えられています。

マギたちは、ペルシアから出発したとすれば、エルサレムまでは 1,000 キロ以上の道のりです。その旅の途中では、きっと何度も不安や迷いがあったことでしょう。それでも前に進んだ彼らの姿は、真理を求める人間の姿そのものとも言えます。最終的に彼らが見出したのは、豪華な宮殿ではなく、質素な馬小屋にいる幼子でした。予想していたものとは違った形で真理に出会った時、彼らは素直にひれ伏して礼拝しました。その謙虚さもまた、私たちに大切なことを教えてくれているように思います。マギたちの旅には、人間の根源的な姿が表れているのだと思います。未知なるものを求め、星に象徴される何かに導かれて旅をする。そして出会ったものに真摯にひれ伏す。そして、ユダヤ人ではない異邦人である彼らが、最初にイエスさまを礼拝した人々だったということ。それこそ、異邦人であろうが、ユダヤ人であろうが、彼らが「主を待ち望む人」であったのだろうと思います。マギたちも星に促されて、新しい王を探し当てるべく旅立ったのです。マギたちは途中で星を見失います。どっちへ進めばいいか分からず。迷い、不安に陥ります。しかし、6 節の御言葉によって、彼らは自分の進むべき道が見えたのです。見失っていた星をもう一度見つけたのです。そして、幼子イエス・キリストのいる場所の上に止まった星を見て、彼らは「喜びにあふれた」のです。

本当の喜びを知るために、占星術の学者たちは長い不安な旅を続けていたのです。それは、本当の救いを、主を待ち望む人たちに必要なことだったからではないでしょうか。救い主を得た喜び、それは礼拝という形でしか表現できません。博士たちは、ひれ伏して幼子を拝み、彼らの宝物を捧げました。「黄金、乳香、没薬」は、彼らの占いに用いる大切な商売道具であったと言います。それを差し出したということは、彼らが過去の生活と縁を切るということを意味していたのです。救い主に出会った大きな喜び、それが彼らの過去を終わらせ、新しい生活へと歩み出させたわけです。悩みや悲しみ、あらゆる問題をかかえていてはいけない、のではありません。どうか、そういう重荷をすべて携えて、毎週の礼拝にいらしてください。そして、主を求める心をもって、祈ってください。主を求める者は必ず主を見いだすことができます。そしてその大きな喜びをもって、私たちは新しい生活を始めることができるのです。私たちの人生の旅路は、悲しみや喜び、苦しみや楽しみ、さまざまなもののが待ち構えています。しかしすべてを新たにしてくださる方を私たちは知っています。その方を待ち望むため、喜びを得るために、新しく迎えようとしている 2026 年も、共に主の御言葉によって、私たちの道を、導かれて参りたいと思います。